

## 研修カリキュラム・シラバス

科目	細目	時間数				講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等	
		計	講義		演習		実習
			通信	通学			
1 職務の理解		(指導目標) その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような形でどのような仕事を行うのか、具体的イメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。					
	(1) 多様なサービスの理解	3		3		介護保険サービス(居宅、施設等) 介護保険外サービス	
	(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3		3		居宅、施設における多様な働く現場の仕事内容 ケアプランの位置付けから始まるサービス提供に至るまでの業務の流れ、チームアプローチ、他職種、地域の社会資源との連携	
2 介護における尊厳の保持・自立支援		(指導目標) 介護職が利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びしてはいけない行動例が理解できる。					
	(1) 人権と尊厳を支える介護	3		3		利用者の尊厳保持、アドボカシー、エンパワメント、 利用者のプライバシー保護 介護分野でのICF、QOLの考え方 高齢者虐待・身体拘束 個人情報保護、成年後見制度、日常生活自立支援事業	
	(2) 自立に向けた介護	6		6		自立支援、残存能力の活用、個別ケア、重度化防止 介護予防の考え方	
3 介護の基本		(指導目標) 専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応 介護を必要とする人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から 支援を捉える。					
	(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	2		2		訪問介護と施設介護サービスの違い。地域包括ケア 重度化防止・遅延化の視点。利用者主体の支援、自立した生活を支えるための援助。根拠のある介護。チームケアの重要性。事業所内・多職種によるチーム 多職種の理解。介護支援専門員、サービス提供責任者 看護師等とチームケア	
	(2) 介護職の職業倫理	1		1		専門職の倫理の意義 介護の倫理 介護職としての社会的責任 プライバシーの保護・尊重	
	(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	2		2		介護における安全の確保 事故予防・安全対策。報告 感染対策(原因と経路)	
	(4) 介護職の安全	1		1		心身の健康管理(ストレスマネジメント、腰痛の予防、手洗い・うがいの励行、手洗いの基本、感染症対策)	

科目	細目	時間数				講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等	
		計	講義		演習		実習
			通信	通学			
4	介護・福祉サービスの理解と医療との連携	(指導目標) 介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について概要を挙げられる。					
	(1) 介護保険制度	3	/	3	/	介護保険制度の背景及び目的、動向 仕組みの基礎的理解 制度を支える財源、組織、団体の機能と役割	
	(2) 医療との連携とリハビリテーション	4	/	4	/	医行為と介護。訪問看護。施設における看護と介護の役割・連携。リハビリテーションの理念	
	(3) 障害者自立支援制度およびその他制度	2	/	2	/	障害福祉制度の理念 障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解 個人の権利を守る制度の概要	
5	介護におけるコミュニケーション技術	(指導目標) 高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることとその違いを認識してコミュニケーションを取ることが求められていることが専門職に求められている事を認識する。					
	(1) 介護におけるコミュニケーション	3	/	3	/	介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術	
	(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	3	/	3	/	記録における情報の共有化 報告 コミュニケーションを促す環境	
6	老化の理解	(指導目標) 加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的側面から理解することの重要性を理解する。					
	(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	3	/	3	/	老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響	
	(2) 高齢者と健康	3	/	3	/	高齢者の疾病と生活上の留意点 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点	
7	認知症の理解	(指導目標) 介護において認知症を理解することの必要性 認知症の利用者を介護する時の判断基準となる原則の理解					
	(1) 認知症を取り巻く状況	1	/	1	/	認知症ケアの理念	

科目	細目	時間数				講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等	
		計	講義		演習		実習
			通信	通学			
	(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2		2			認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理
	(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2		2			認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 認知症の利用者への対応
	(4) 家族への支援	1		1			認知症の受容過程での援助 介護負担の軽減
8	障害の理解	(指導目標) 障害の概念とICF、障害福祉の基本的な考え方の理解 介護における基本的な考え方についての理解					
	(1) 障害の基礎的理解	1		1			障害の概念とICF 障害者福祉の基本理念
	(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1		1			身体障害(視覚障害、聴覚平衡障害、音声言語咀嚼障害、肢体不自由、内部障害) 知的障害 精神障害(高次機能障害、発達障害含む) その他の心身の機能障害
	(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	1		1			家族への支援 障害の理解・障害の受容支援 介護負担の軽減
9	こころとからだのしくみと生活支援技術	(指導目標) 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解。基礎的な一部、または全介助等の介護が実施できる。尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える技術や知識の習得					
	I 基本知識の学習	(10～13時間程度)					
	(1) 介護の基本的な考え方	6		6			理論に基づく介護 法的根拠に基づく介護
	(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3		3			学習と記憶の基礎知識、感情と意欲の基礎知識、自己概念と生きがい、老化や障害を受け入れる適応行動と 阻害要因、こころの持ち方が行動に与える影響、からだの状態がこころに与える影響
	(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3		3			人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 骨・関節・筋、神経に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用 こころとからだを一体的に捉える 利用者の様子の普段との違いに気づく視点
	II 生活支援技術の講義・演習	(50～55時間程度)					

科目	細目	時間数				講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等	
		計	講義		演習		実習
			通信	通学			
	(4) 生活と家事	2	/	1	1	/	家事と生活の理解 家事援助に関する基礎的知識と生活支援
	(5) 快適な居住環境整備と介護	6	/	3	3	/	快適な居住環境に関する基礎知識 高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法
	(6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	8	/	3	5	/	整容に関する基礎知識 整容の支援技術 演習時間内に実技評価を行う
	(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	/	3	3	/	移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法 利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 移動と社会参加の留意点と支援 演習時間内に実技評価を行う
	(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	/	3	3	/	食事にに関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具、食器の活用方法 食事形態とからだのところのしくみ 楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 食事と社会参加の留意点と支援 演習時間内に実技評価を行う
	(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	8	/	3	5	/	入浴、清潔保持に関する基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法 楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 演習時間内に実技評価を行う
	(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	8	/	3	5	/	排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法 爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 演習時間内に実技評価を行う
	(11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	4	/	1	3	/	睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法 快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 演習時間内に実技評価を行う
	(12) 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	3	/	2	1	/	終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程「死」に向き合うところの理解 苦痛の少ない死への支援
Ⅲ	生活支援技術演習						(10～12時間程度)
	(13) 介護過程の基礎的理解	6	/	/	6	/	介護課程の目的・意義・展開 介護課程とチームアプローチ

科目	細目	時間数				講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等	
		計	講義		演習		実習
			通信	通学			
	(14) 総合生活支援技術演習	6			6		生活各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点の習得 (2事例による展開) 演習時間内に実技評価を行う。
10	振り返り	(指導目標) 研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことにつちえ再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識					
	(1) 振り返り	2		2			研修を通して学んだこと継続して学ぶこと 根拠に基づく介護についての要点
	(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2		2			継続的に学ぶこと 研修終了後における継続的な研修について